

施設キュウリの整枝法による収量・作業時間の比較

研究のねらい

施設キュウリ栽培における整枝法は大きく分けて、摘心栽培とつる下ろし栽培が行われています。摘心栽培は収穫期後半の品質低下が、つる下ろし栽培は整枝作業時間の多さが問題となっています。

そこで、両者の長所を取り入れた子づるをつり上げる整枝法について、慣行の整枝法と収量・作業時間を比較しました。



写真 子づるを誘引ひもでつり上げる様子

技術の特徴

- 1 子づるをつり上げる整枝法は主枝の下段から発生する子づるを1～2本つり上げ（写真、図1）、主枝の高さで摘心する整枝法です。
- 2 本整枝法は、慣行の摘心栽培よりもA品率が向上し、A品収量が増加します。
- 3 本整枝法の作業時間は慣行の摘心栽培と同等で、つる下ろし栽培よりも大幅に少なくなります（図2）。
- 4 子づるをつり上げると混みやすくなるので、過繁茂になりやすい場合はつり上げる子づるを1本とし、摘葉・摘心を遅れないで行う必要があります。

今後の取り組み

フォローアップセミナーを開催し、技術の普及を図ります。

（執筆者：鶴生川 雅己）

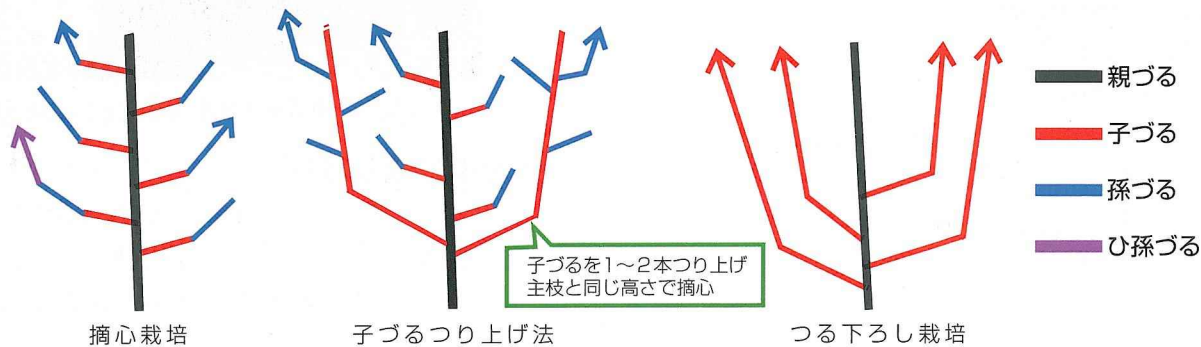


図1 各整枝法の模式図



図2 整枝法による作業時間の比較